# ほっとでもっと
## 明るい未来へ
## ほっと

館林邑楽相談支援センターほっとは、館林市苗木町の館林市総合福祉センターの２階で運営しています。所内には空間を分けた小さな相談室と、広めの空間での相談室があります。

ほっとには平成29年度現在、約670人の相談者がおり、所属する相談員９名、療育相談員１名で、相談者の支援をさせて頂いています。

ご相談内容は様々です。福祉サービスのご利用について、これからの生活について、就労について、日常生活を送る中での悩みなど多岐にわたっています。これまでの生活歴、現状の生活について伺い、現状抱えている課題の乗り越え方を一緒に考え、ご本人が望む生活の実現へ向けて支援させていただきます。

ご本人が望む生活を実現するため、また課題を乗り越えるために福祉サービスを利用するうえで、地域の障害福祉事業所、行政、医療など多種多様な関係機関との連携は欠かせません。お互いがそれぞれ情報提供、連携を図り、相談者の望む生活の実現へ向けてチームとして支援を行っていきます。

ご来所いただいたある相談者から以前「この一枚の扉を開けることが重かった」と伺ったことがあります。悩みを抱えた相談者にとって「相談する場所に出向くこと」自体ハードルが高く、相談支援事業所自体がまだまだ「近くて遠い場所」なのだと感じました。我々相談員は「重く感じる扉」をやっとの思いで開けてくれた相談者にとって、少しでも「相談しやすい場所」であれるよう努めていこうと思っています。

「意思決定支援・自己決定」が叫ばれる昨今。相談いただくことも一つの自己選択であり、相談しないこともひとつの選択と思います。

自ら抱える不安を他者へ伝えることは複雑な気持ちであると思いました。相談者としても不安や期待が入り混じっているかと思います。

相談することを選んでくださった相談者の期待に応えるべく支援をさせていただいていますが、必ずしも最短・最善の支援が提供できるとは限りません。相談者の人となりが違えば、希望や課題もそれぞれ。支援を進めるペースも様々。支援を重ねて希望する生活や目標、課題の解決に近づいていく道のりは一つとして同じということはありません。思い描いた目標まで「予定通り」に辿り着けないこと、遠回りになることも度々あります。そんなときには今いる場所を俯瞰してみます。別の角度から眺めて直してみたり、新たな起点を持つことを心掛け、再度相談者とともに「これからの生活、これからの生き方」について考え直していきます。

「我々相談員の業務は常に利用者さんの伴走者であるべきだ。」当事業所の上司から以前伺い、今でも私が大切にしている言葉です。今後も相談者さんが進む方向を一緒に向いて、同じペースで側にそっと寄り添える存在になれるよう努めていきたいと思います。

相談支援専門員
勤続５年　茂木　利江子